

1 実践事項

学びや生活をつなぐ幼児教育の充実 ～子どもの主体性を育む保育実践を通して～

2 実践内容

- ・食育と遊びを通じた保育実践
- ・個々の生活経験を活かした保育実践

3 説明資料

実践事例① 「いっぱい遊んだから、お腹すいた～」
幼児の姿（5月）

4 歳児

粘土遊びや折り紙、ブロック遊びを好む子が多く、室内遊びが多い。食事の時間になると「もっと遊びたい」「今はお腹すいていないよ」と食事に興味のない反応が見られた。他にも「大きいから自分で切れない」「野菜が嫌い」「先生に食べさせてもらいたい」等の思いがあり食事中に「先生こっち来て」と教師を呼び、食べたくない事を伝える姿が多く見られた。



子どもが進んで食べなくなる環境作りや食に興味・関心がもてるような働きかけをしよう！

(6月～11月)



子どものつぶやき



教師の援助



環境構成

野菜の世話・会食を通して親しみをもてるようにする



大きくなあれ♪

トマト美味しそう！
早く食べたいな

大きくなりすぎたオクラはスタンプ遊びにして身近に感じられるようにする



星の形になったよ！

好きな友達と食べたり、教室以外で食べたりする等、子どもと相談しながら場所を考え食事時間が楽しくなるようにする



今日は天気がいいからお外で食べたいなあ

鬼ごっこを繰り返し楽しんでいる姿から思い切り体を動かせられるように小学校の運動場を使う



小学校の運動場広～い

与那原大綱曳の再現遊びでは、教師も一緒にねばり強く大綱曳遊びを楽しむ



なかなか勝負がつかないよ

認めたり励ましたりして挑戦する思いに寄り添う



先生、見ていてね！

やってみたい気持ちを引き出せるように運動遊具を子どもの動線に沿って置く



先生、大縄回して～

【エピソード】

G・Wでバーベキューを経験したS君が、「バーベキューごっこしよう！」と教師と友達数人を誘い遊びが始まった。3～4名のごっこ遊びから周りで見っていた友達も加わり、遊びの輪が広がっていきバーベキューごっこが「お店屋さんごっこ」へと展開した。遊びを進めていく中で、互いの意見を出し合いながら時に教師の仲立ちが必要な場面もあった。

友達と一緒に再現遊びに夢中



バーベキューで、焼きそばとお肉食べたよ！

どこでお店をひらこうかな？



お店は、ここね！

ここにレジをおく？

お店屋さんが始まりました！



いらっしゃいませー。
たこ焼き、300円でーす。

お客さんが増えてきました！



焼きたてのお肉、おいしいよ！

お持ち帰りですか？
店内でたべますか？

★店内で食べています



もっと食べたいね♡

おいしいね。
また、買いに行こう!!

3歳児・4歳児のお客さん



3歳さんは、無料って。でも、25歳からは高くなるって。なんですか？

【環境構成や教師の援助】

- ・新たに友達が加わったことで、思うようにごっこ遊びが進められないときには、互いの思いを伝えられるよう教師が仲立ちして、友達の思いにも気付けるようにする。
- ・幼児の発想や思いを実現できるように教師も一緒になって考え、友達関係をつなげていく。
- ・3歳児・4歳児とも遊びを楽しみながら、年下との関わり方や思いやりの気持ちがもてるように見守ったり、言葉を補足したりする。
- ・遊びに応じて、身近な素材や道具、遊びのスペースを確保し、十分に遊べる時間を保障していく。
- ・文字に関心を持ち始め看板やメニュー作りをしたい思いを汲み取り、50音表や平仮名の書き方の絵本などを目に留まりやすい場所に掲示する。
- ・食品のチラシや絵本を目のつく位置に置いたり、作りたいメニューのイメージが広がるように教師と一緒にインターネットから食べ物を検索したりする。

4 成果

- ・各年齢に応じて、体を動かす心地よさや友達と一緒にいる楽しさを感じ、遊びや生活の中で満足感を味わうことができた。
- ・幼児のやりたい遊びを教師も一緒に参加し、幼児の思いを実現していけるように援助したことで、遊びを夢中になって継続できるようになった。
- ・幼児が遊びを通して、友達との関わりを見守ったり、つながりを感じられるように仲立ちをしたりしたことで、友達と遊ぶ楽しさを味わうことができた。
- ・3歳児、4歳児との関わりの中で、5歳児としての意識が高まり、遊びをリードしたり、遊びに参加しやすいように考えたりしようとしながら思いやる姿が見られるようになった。
- ・遊びを進める中で幼児が自信をつけ、生活面でも意欲的に取り組む姿が見られるようになった。

5 課題

- ・生活面では、家庭環境による差がまだあると思われるので、幼稚園での遊びや生活の様子だけを発信するだけでなく、幼児の実態に合わせて、保護者への発信内容を工夫していきたい。
- ・集団生活や一人ひとりに応じた環境構成となるよう、引き続き環境を見直し、工夫していきたい。